## 3 る きと

石垣御修復控

島原城石垣修復の記録

のです。 襲った大雨により、 て石垣を未来に継承するための など、価値ある「文化財」とし 解明するための発掘調査を行う 垣が崩れました。現在、 工事が、まさに今行われている 江戸期の石積みの技術や旧状を に石垣を積み直すだけではなく、 復旧工事が進んでいますが、単 昨年6月、 九州・山口地方を 島原城の石 懸命の

できます。中でも今回紹介する 々の資料からも確認することが われてきたことは、遺された数 落し、それに伴う復旧工事が行 江戸時代にも、石垣が度々崩 資料は、 18

『石垣御修復控』 (松平文庫蔵) 細かに記され、 が日記体で事 5・嘉永元) 4 8 年 りとなり得る 動員のことな 修復の工程や の工事の経過 (弘化

貸料です。

います。 今の市役所あたりに設けられて 受け入れるための仮設住宅も ごとに交代で、多い村で百人規 模の農民が手伝方として参加し といった藩士、棟梁以下さまざ ました。遠方の村から来た者を から、さらには島原半島中の村 まな階層の石工、賃雇の作業員 この工事には、 普請方や賄方

酒が、作業に従事する多くの人 はない中で、重要になったのが する者も現れました。 たちの労をねぎらいました。 た、その様子を見て、酒を献上 工費や人件費が決して潤沢で 毎日のように振る舞われた

りながら修復を重ねた「石垣の の裏には、 目にすることができる石垣の姿 まずは石垣に目を向けてみてく (松平文庫学芸員(吉田 信也) ことができる人は限られますが 現在、修復工事に直接携わる 数百年の時を経て今、 多くの人たちが携わ 確かにあるのです。



す」と話してくれました。

継承していくことを期待していま の歴史と文化を再認識し、次世代へ の取り組みを通して、城下町・島原

講されています。 を目的とした「島原子ども狂言ワ がら再認識し、伝承していくこと 能に触れ、島原の文化を体験しな る伝統芸能「狂言」。その伝統芸 ークショップ」が平成16年から開 能とともに島原に古くから伝わ

ます。 加者の中には9年目になる人もい 局校生までと年齢層は幅広く、参 現在の参加者は36人。 園児から

5月から月2回、 念舞台の発表に向け、 ある「島原城薪能」 節目を迎え、島原の秋の風物詩で 方の野村万禄さんの指導のもと、 今年は開講11周年という大きな 小謡や舞台での での10周年記 和泉流狂言

> ってきています。子どもたちが、こ れたことがない人にも親しまれ広が 所作の稽古を積んでいるそうです。 古典芸能で、子どもたちや能楽に触 田貴子さんは「狂言はわかりやすい ボランティアスタッフの一人の北

るので、やりがいがあります。もっ 城薪能」をぜひご覧ください。 城天守閣前広場で開催される あります。島原の歴史に触れる良い 像力を膨らませながら見る醍醐味が るのが目標で、今後も続けていきた と上達して役に入り込めるようにな 賢一郎くんは「セリフの稽古はきつ のこなし、簡素化された舞台で、 い」と元気よく話してくれました。 いですが、お客さんが楽しんでくれ 機会です。皆さんも10月19日に島原 狂言は、ユーモラスなセリフと身 8年目で第一中学校2年生の鶴田



